

鉛川地区における地熱開発調査事業に関する説明会（結果）

次 第

令和元年 5月28日（火）13:30～
はびあ八雲 コミセンホール

1 開 会

2 挨拶

八雲町商工観光労政課長

3 調査概要説明

三井不動産株式会社

別紙報告資料に基づき説明

4 解 説

北海道立総合研究機構 北海道地質研究所長

●解説の概要

- ・地下の資源を探すということは非常にリスクが高い。
- ・大規模地熱開発であれば2本、3本と複数本の井戸の掘削を行う。
- ・今回の三井不動産（株）の事業規模である2000kW程度の発電であれば、事業採算性等考慮し複数本の井戸を掘削することは難しい。
- ・今回の調査井（生産井）は1200mまではセメンチングで井戸の周りを全部固めており、噴気させようとしたのは1200mから下の部分である。
- ・2500m付近には250℃の熱水が確認されているが、この場所に優秀な熱水が大量にあれば噴出したはず。しかしながら、1200m～2500mの間には温度の低い熱水も多くあるため、これらが混ざり合い、トータルとして40t～50t、90℃程度の熱水として出てきた
- ・これは、地熱発電には至らなかったが1200m～2500mまでにこれだけの資源があるということとも言える。
- ・この地域に地熱資源が無いわけではない。発電に至る温度の蒸気、熱水の場所がまだ見つけられていないということである。
- ・掘削調査の前段階の地表調査は、ある考え方、モデルに基づいてどの位置に断層、貯留層があるだろうという考え方を決めるものである。
- ・今回の掘削はこのモデルに基づき行われたものであるが、今回の結果により鉛川地区の地熱が全てダメかということではないと思う。
- ・今回の結果を受け、今後、新たな考え方やモデルにも繋がる可能性があると思う。
- ・今回の結果についての、JOGMEC、専門家の見解については納得できる。
- ・しかしながら、この地域について今後一切何も評価しなくていいか、まだこの調査エリア外や別な考え方での調査を検討することは今後の課題である。
- ・今回の調査で地域の方々の地熱に対する理解は深まったと思う。また、この地域に資源が眠っているということもわかっていただけたと思う。
- ・今回、調査を実施したことにより、地域に調査データが残ることは地域にとって財産であると思う。

5 質疑等

質疑なし

6 閉 会